

## 主要人物紹介

### (リーダー)

宗像 (24) グループのリーダー。両親はおらず、児童養護施設で幼少期を過ごす。少年の頃から万引きや飲酒、喫煙を繰り返していた。中学卒業後、松鳳会系の暴力団が経営しているスクラップ工場で働き始める。現在は工場長であり、スクラップ工場はグループの活動拠点になっている。性格は暴力的で冷酷無慈悲。

### (副リーダー)

新宮 (24) ナンバー2。メンバーに直接的な指示を与える役割。両親は離婚しており、児童養護施設に預けられる。この時、リーダーの宗像と知り合う。その後は祖父母に育てられるが、19歳の時に家出。ネットカフェやファストフード店でその日暮らしの生活をしてきた。九州に戻ってきた際、宗像と再会し、現在同居している。性格は宗像同様、暴力的だが、冷酷と言うよりすぐに熱くなるタイプ。宗像に対して厚い信頼を寄せている。

### (実働部)

吉川 (26) タトゥーショップを経営している。裏ではハーブ取引人の顔を持つ。新宮の高校の先輩。最年長ではあるが、宗像と新宮の力を認め、下についている。性格は明るく能天気。しかし、喧嘩の強さは折り紙つきで、学生時代は喧嘩でほとんど負けたことがない。

田口 (24) 元キックボクシング選手、度重なる違反行為によりボクシング界を追放になり、夜の街をふらついていた時、新宮に直接声をかけられ仲間に入った。常人ではとても追いつけないスピードでの攻撃が可能。細身ながら強靱に鍛え上げられた肉体の持ち主。性格は好戦的。キレたら手がつけられない。一度戦いが始まると、相手が意識を失うまで徹底的に痛めつける。

堀内 (24) 柔道、合気道経験者、地下格闘技の選手。新宮が関東に行った際、地下格闘技の試合会場で出会う。九州出身であったために意気投合し仲間入りする。主に田口と共に組むことが多い。非常に恵まれた体格をしている。性格は好戦的でプライドが高い。「自分以外全員カス」が信条。

古畑 (24) 元会社員。飲酒運転とひき逃げでリストラされ、現在はボクシングジムを経営している。大学社会人でラグビーをしており、強靱な肉体と俊足が武器。筋肉バカであり、筋トレに誰よりも熱心に取り組んでいる。性格は快活で明るい、体を動かすことが至上の喜びであり、卑劣な性格も相まって、人に対して暴力を振るうこともスポーツ感覚で楽しんでいる。

平山 (23) 祖父母が居酒屋を経営。祖父母と言っても両親はおらず、呑み屋街の住民に育てられた。新宮の地元の後輩であり、店の二階はメンバーの活動拠点の一つにもなっている。性格は陰湿。弱いことが悪いことだと思っており、強いものに対しては媚びるが、弱者に対しては容赦なく手を出す卑劣さを持つ。したがって、弱い者に対する犯罪行為に心の痛みは皆無。

佐田 (22) 大学生。大学に入学して1ヶ月しかまともに通っておらず、進級も出来ずにいるが、親にはそのことを報告しておらず、仕送りももらい続けている。夜の街で遊びに明け暮れていたところ平山と知り合い、店の常連になる。学生時代にはいじめっ子で、何人かの生徒を不登校に追い込んだ。性格は井上同様陰湿。

### (車両部)

松山 (22) 白のV36スカイラインを所有。年少だが、チーム内での影響力は強い。祖父は暴力団組織松鳳会の会

長であり、宗像、新宮とは少年時代からの知り合い。性格は他のメンバーと同様に暴力的。勉強は比較的得意で、大学も卒業している。御坊ちゃま気質で、祖父の組織の後ろ盾もあるため、公然と悪行を行う。

高原 (21) 白のヴォクシーを所有。地理に詳しく、抜け道や駐車場の位置もほとんど把握している。佐田と同じく現役大学生であり、平日は学校に通い、土日だけ活動に参加している。以前はホストのアルバイトをしており、売り上げ上位に入ったこともあったが、金銭トラブルを起こし、すでに辞めている。性格は穏やか。しかし、二面性があり、家族や知り合いの前では良い人を演じている。心の中では、自分が気に入らない人物は死んでも良いと思っている。

平野 (23) 黒のシボレーアストロを所有。頭脳明晰でPCに詳しく、ハッキングも行える。ハッカーとしても収入を得ていたことがある。残酷な映像や恐怖映像を見るのが趣味。性格は猟奇的。サイコパスの気質があり、常人では考えつかないことを平気で言ったりする。

(諜報部)

藤島 (19) メンバー最年少で唯一の未成年。現役会社員。会社ではロクな上司がおらず、今の生活に嫌気がさしている。スクラップ工場に偶然迷い込んだ際、宗像と知り合い、自ら仲間になりたいと志願する。冷静な性格ゆえ、主に情報収集や尾行などを行う役割を任される。実は父親が警察官である。しかし、自身は暴力行為に対する抵抗はなく、犯罪被害者に対する思いやりも一切ない。

(4月下旬。22:00頃。北九州)

(1人の男が夜の道を歩いている)

どんな生物にでも突然変異がいる様に  
人間にもそう言う奴はいる  
社会性と共感性の欠落した奴  
俺はたまたまそう言う奴  
そう言う奴はそういう生き方しか出来ないから  
そう言う事をする——  
ただそれだけだ。誰にも理解されようなんて、思っちゃいない。

【宗像むなかた:24歳、リーダー】

(しばらく会っていない児童養護施設時代からの友人、新宮に連絡する)

宗像:もしもし。新宮、久しぶり。

新宮:もしもし。突然なんだ。

【新宮しんぐう:24歳、ナンバー2】

宗像:…北九帰って来ねえか。

###

(11月下旬。21:00頃。北九州)

(ビルの地下。新宮が風俗嬢である彼女ユキ、本名:咲のもとを後にし、階段を上っていく)

新宮:仕事頑張れよ。

ユキ:ありがとう。ねえ、また来てくれる。

新宮:ああ。じゃあ。

(新宮が地上に出てくる)

###

(電車の構内アナウンス)

(駅に電車が停まる。女性が降車し、離れて1人の若者がついていく)

(改札を通過し、若者が新宮に電話をかける)

藤島:もしもし、藤島です。今八幡の改札出ました。タクシー乗り場も素通りしました。いつも通りです。

【藤島ふじしま:19歳、会社員、最年少幹部】

新宮:了解。バス通り沿いで良かったよな。

藤島:はい。ファミマのある通り沿いに来てください。

新宮:わかった、ご苦労。高原に連絡するわ。とりあえず尾行続けてくれ。

藤島:分かりました。失礼します。

(新宮がメンバーの高原に電話をかける)

(高原、その他のメンバー平山、佐田が乗った車がスーパーの駐車場に停まっている)

高原:はい、もしもし。高原っす。

【高原たかはら:21歳、現役大学生、車両担当】

新宮:あーもしもし、例のキャバクラの女子大生、予定通り来たらしい。駅前のコンビニがある大きい通り沿いだ。コンビニにでも停めて行ってくれるか。

高原:はい、でもコンビニだと防犯カメラあると思うんすよね。

新宮:あー。なんかいい場所あるか。路駐しかないか。

高原:空き地ならありますね。短時間であれば大丈夫だと思います。

新宮:そうか。今そっち誰がいる。

高原:平山さんと佐田さんが乗ってます。

新宮:よし、わかった。それで行ってくれ。

(スーパーの駐車場から車が出ていく)

###

(ゲームセンターの前で男2人組がナンパしている)

男1:あの、すみません。お姉さん、今時間ありますか？

女性:あ、いや、ないです。

男2:ちょっとだけでも、無いですかね。

女性:いや…。

男 1:今から食事っすか? 飲み行くんっすか。

女性:友達と合流します。

男 2:まじかー、じゃあそれ終わった後でいいんで、連絡先だけ交換してもらえませんか?

女性:ええ…、でも彼氏がいるんですよ。

男 1:まじっすか、じゃあまずは友達関係でいいんで、お願いします!

(タトゥーを入れた厳つい男が2人歩いてくる)

田口:大丈夫っすか? なんだお前ら、今から飯行くんか。一緒行こうか?

【田口たぐち:24歳、元キックボクシング選手、恐喝担当】

男 2:い、いやあ…。

堀内:どしたん? 行こうぜ。ちょうど俺らも腹減つとるけ。

【堀内ほりうち:24歳、地下格闘技選手、恐喝担当】

田口:ノリ悪いやんかー食い行こうぜ。

男 1:いやちょっとこれからちょっと予定があって…。

堀内:あ? じゃあなんで今女の子たち誘いよったん? おかしくね?

男 1、2:…。

田口:答えろやコラ! (ボディに一発入れる)

男 1…!

男 2:すいません! (走って逃げる)

堀内:ちょい待てや! (追いかけて捕まえる)

田口:変な奴もいますね。帰り歩きっすか? 送りますよ。

女性:ありがとうございます、大丈夫です。ちょっと遠いんでタクシーで帰ります。

(女性がタクシー乗り場に走っていく)

堀内:っち。

###

(高原たちが空き地に車を停める)

(高原が藤島にメッセージを入れる)

高原:(着いた)

(藤島が歩くペースを落とし、電話をかける)

藤島:もしもし、高原さん、どこいます?

高原:病院前の信号の先の空き地。

藤島:あーなるほどですね。分かりました。50メートルくらい手前ですね。もうすぐ姿見えると思います。

高原:どう行けばいい?

藤島:左側通ってるんで、左側に渡って来てもらって、二階建てのアパートあるんで、そのその辺の道で待っててもらえますか。

高原:分かった。(電話を切る。後ろに座っている2人に話しかける) 藤島から連絡で、反対側の道らしいです。

渡ったら、あの二階建てのアパートの裏くらいに入ってください。

平山:おう。おい、お前先攻後攻どっちがいい。

【平山ひらやま:23歳、居酒屋店員、恐喝担当】

佐田:そうっすね…、じゃあ俺最初行きますわ。

【佐田さだ:22歳、現役大学生、恐喝担当】

平山:俺は一本先の通りから顔出すから、早くやれよ。スピード勝負だぞ。

佐田:大丈夫っすよ。

(平山と佐田が車を降り、反対側の歩道に行く)

(佐田がアパートの手前に潜む)

(女子大生が通り過ぎる。佐田が大きく深呼吸をし、すぐ後ろからついていく)

(女子大生が気配に気づき、速足になる)

(佐田がナイフを出し、女子大生の前に回り込む)

佐田:ちょっとお姉さん、お金持ってるかな？

女子大生:は！

佐田:大声出すな。言うこと聞いたら手出さねえから。

(女子大生が走り出す)

佐田:おい！

(前の通りから平山が出てくる)

平山:どうしたんすか。

女子大生:(佐田を指差して)あの人が！

(佐田が逆方向に走って逃げる)

平山:もう大丈夫です。危なかったですね。こんな夜道、1人じゃ危ないですよ。今は変な奴が多いですからね。

家はもうすぐですか？

女子大生:は、はい。

(女子大生のアパートの前まで来る)

女子大生:ありがとうございます。もうここで大丈夫です。

平山:いいですよ、最後まで送りますよ。

(家のドアの前まで来る)

女子大生:え。

(平山が女子大生に銃を向ける)

(車の中。高原が運転席、藤島が助手席に、佐田が後部座席に乗っている)

高原:佐田さん、なんなんすかあれ。簡単に逃げられてるやないですか。女子大生っすよ相手。

佐田:うるせえわ。大変なんぞ、やる方は。

藤島:あ、帰って来ましたね。

佐田:出口潰した銃でも、それ自体は本物だからな。松山のじいちゃんのところから手に入って良かったよな。

(3人が車の外を見る)

(井上が奪い取った金を持って戻ってくる)

(車が走り出す。信号が黄色に点滅している)

###

(ゲームセンターの裏。田口と堀内が先程の男2人を甚振っている)

男1:もうなんなんすか、やめてください!

田口:あ?だから食事行こうぜって言うてるんだよ。腹減ってんだからよ。

男2:お願いします、許してください!

堀内:じゃあ飯代払えや!

男1:ええ…。

田口:え、じゃねえだろ!(さらに強く殴る)

男2:今お金持ってないんですよ!

堀内:うるせえなじゃあ下ろせや!

男1:分かりました、払います。

田口:なんだ、持ってんのかよ、最初から言ってくれよ。

(男1が財布からお金を出そうとする)

堀内:貸せ。(財布を奪い取り、札を全て抜き取る)ほい、返すわ。

田口:てめえも払え!

男2:すみません、俺、本当に持ってないんです。(財布の中身を見せる)

田口:じゃあねえな。謝ったら許してやるよ。

男2:ありがとうございます、申し訳ありませんでした。(頭を下げる)

田口:なんだそれ。違うだろうが!(頭を掴んで無理やり座らせる)

男2:申し訳ありませんでした!(泣きながら土下座する)

(田口と堀内が路地から表通りへ出てくる)

(仲間の松山が車で迎えに来ている。2人が車に乗り込む。)

松山:お疲れっす。あら、女の子は連れてこれんやったすか。

**【松山まつやま:22歳、暴力団組長の孫、車両担当】**

堀内:馬鹿か。

(メンバーを乗せた2台の車が夜の街に消えていく)

(街は何事もなかったかのようにいつもの空気を取り戻す)

###

(22:00頃)

(グループのリーダー、宗像のスクラップ工場の駐車場)

(この工場で宗像と新宮は2人で生活している)

(先に集まっているメンバー平野の車、黒のシボレーアストロが停まっている)

(事務所の中。平野と動いていた吉川と古畑がソファに座っている。平野がカウンターの椅子に座りパソコンの画面を見ている)

(吉川がタバコに火をつける)

吉川:古畑、そこのコーヒーとっちゃらん?

【吉川よしかわ:26 歳、タトゥーデザイナー、ハーブ売人、恐喝担当】

古畑:いいっすよ。あれ、右腕のタトゥー、増えてません？マリア様入ってんじゃないっすか。

【古畑ふるはた:23 歳、ボクシングジム経営、恐喝担当】

吉川:おう、ちょっと物足りんやったけ、入れた。

(古畑が立ち上がり、カウンターにコーヒーを取りに行く)

古畑:うわ、お前また何見てんだ。

平野:面白動画です。

【平野ひらの:23 歳、サディスト、車両担当】

吉川:ふ、面白動画げな。叫び声聞こえるやんか。

古畑:お前よく平気でそんな動画見れるな。あ、どうぞ。ブラックでいいっすか？

吉川:ああ。それなんの動画なん。一応聞くけど。

平野:海外の拷問の映像です。有名なやつっすよ。多分みんな知ってるやつです。

古畑:ん。(画面を覗き込む) あーそれ画像で見たことあるわ。

(リーダーの宗像が工場の駐車場を歩いている)

(宗像が事務所の引き戸を開け、中に入ってくる)

宗像:高原から連絡があった。他のやつらはうまくいったらしい。

古畑:おお、まじっすか！畜生、俺らだけか、しくじったのは。

宗像:吉川さん、言ってたやつ、ありますか。

吉川:あ、そやったね。あるよ。

(上着の内ポケットからハーブを取り出し、宗像に手渡す)

宗像:あざっす。

平野:てか新宮さんって今どこいるんですか。

宗像:あいつ今彼女の家だ。

吉川:え、同棲しとったっけ。

宗像:まあ、同棲いうか、よく立ち寄っとる感じな。

古畑:いいっすねえ、羨ましいですよ。俺らって非リアの集まりじゃなかったんすか。

(高原の運転する車が帰ってくる)

(高原、平山、佐田、藤島が入ってくる)

高原:お疲れさまです。

宗像:お疲れ。

平山、佐田、藤島:お疲れさまです。

(平山、佐田がソファーに座る。高原が丸椅子に座る。藤島は立ったまま。宗像が正面の椅子に座る)

高原:今回は久し振りに当たりでした。

宗像:当たり？女子大生だろ。大して無いだろ。

平山:10万です。

吉川:10万!?なんでそんな大金持ち歩いてるんだ。

藤島:多分、夜職やってます。小倉でよく見るやつなんです。

古畑:ショーパブとかか。

藤島:そこまでは分かりません。持ってる額からして、普通のバイトでは無いですね。

平野:そんな大金持ち歩くのは馬鹿だろ。自業自得だと言われてもしゃーねー。

高原:いや、持ち歩いてたのは3万でした。

宗像:ん?

高原:佐田さんがしくった後、平山さんが家の前で脅迫して、部屋の中にある金も持って来させたんです。

佐田:俺のことはいいだろ。

吉川:やるなあ平山。でもお前、働いてる店小倉だろ。顔知られてんじゃねえのか。

井上:ネックウォーマーにメガネしてたんでバレてないと思います。

古畑:よくそんな怪しいやつについていったよな。

宗像:佐田が近づいた直後だから気が動転してたんだろ。2人1組の時間差は有効だな。

高原:ですね。

宗像:おい平山。お前部屋ん中入ったんだろ?指紋とか残してねえよな。

平山:当たり前じゃ無いすか。手袋してましたよちゃんと。

(松山の運転するスカイラインが帰ってくる)

宗像:松山帰ってきたな。

高原:あと、今回はまじで藤島の働き大きかったです。

藤島:ありがとうございます、まあ、そういう役目だったんで。

宗像:そうか。よくやった。これ、やってみるか?(ハーブを見せる)

(街灯が青白く光っている)

(23:00。下田が事務所に到着し、メンバー全員が集合)

(奥の机に宗像。机の前に低いテーブル。テーブルを挟むようにソファが二つ。ソファのそばにパイプ椅子が3、4脚。ソファに新宮と田口、堀内、松山。反対側のソファに吉川、平山、佐田、古畑が座っている。その他は椅子に座っている)

宗像:お前だけリア充しやがって、22:30 集合って言ったろうが。

新宮:待たせて悪かったな。

松山:リーダー、嫉妬ですか。

宗像:お前、俺が会長にお世話になってるから何もできないと思って調子乗んじゃねえぞ。

松山:すいません。じいちゃん、リーダーのこと褒めてましたよ。組持たせてやってもいいって言ってました。

宗像:会長にはいつも言ってるが、俺はヤクザにはならない。あの世界は相当の覚悟がねえと入れねえ。俺みたいなどうしようもねえクズは通用しねえよ。まあ、世話になったから申し訳無いけどな。

松山:そうですか。

藤島:でも、なんだかんだで全員揃うのは久し振りやないですか?

新宮:全員はないな。2ヶ月ぶりだな。

宗像:そうだな。吉川さんとかは田口と堀内と会うの初めてやないんかな。

吉川:ああ、初めてお会いするわ。あんなやつおったっけっち考えよったわ。

新宮:紹介するわ。田口、こっちが堀内。

田口:よろしくお願ひします。

新宮:2人とも俺とリーダーと同級だ。田口とは行橋で偶然会って、こいつ、俺にタカって来やがったけ、ぶちくらしたろうかと思ったんやけど、仲間も必要やったけ、直接誘ったらのってくれたけ。キックボクシングやりよって、元選手らしい。で今は引退してふらふらっち感じらしいで。

古畑:マジっすか。俺、南区でジムやっとなるんですよ。今度スパーやりましようや。

田口:ああ。

新宮:(肩を叩いて) こっちの堀内もなかなか半端ない奴だぜ。

平野:なかなか半端ないって日本語おかしくないっすか?

新宮:うるせえ、殺すぞ?

新宮:堀内とは、俺が関東行った時会ったんや。

平山:なんで関東行ったんすか?

藤島:彼女さんじゃないんすか。

新宮:まあ。そんな時、ちょうど地下格闘技のチーム組んでるやつと話す機会があって、試合見に行って、その会場で会った。

佐田:今は引退されてるんすか。

堀内:いや、一応今も現役やね。家もあっちにあるし、まあ契約社員みたいな感じたい。

松山:あれ、出身こっちすか?

新宮:堀内は九州出身らしくて、それで話が盛り上がったんよな。

宗像:これから一緒に楽しくやっていこうや。今度はこっちのメンバーも紹介しよか。まず新宮。こいつとはガキの頃施設で知り合ってからのだち。俺ら2人でこのスクラップ工場経営しとる。仕事内容は事故車からパーツを解体してそれを転売したり、盗難車を海外の売人に流したり、色々や。普通のお客さんもまあまあおるけどな。この人が吉川さん。俺らの2つ上になる。吉川さんは小倉でタトゥーショップされとんや。

吉川:よろしくな。まあ、タトゥーショップ言うても、売り上げの半分以上はハーブやけどな。

田口:ハーブ売ってるんすか。

吉川:今はいろんな人が買いくるで。女性も多いし。16歳の女の子とかもやる時代や。

堀内:警察とか入んないんすか。

吉川:よく入ったね。でも大丈夫。店頭には置いとらんけ。

宗像:古畑は元リーマン。今はこの工場で働いとる。

堀内:リーマン…。

古畑:飲酒運転とひき逃げでクビになったんす。地元帰ってきて、ジム開いて、まあ最初は俺のトレーニングスペースって感じで看板も上げてなかったですけど。そのうち近所のやんちゃな子たちが集まるようになって、今のジムになったっちかんじっすね。

宗像:この平山は下田の近所の後輩。じいちゃんばあちゃんと一緒に小倉で居酒屋やりよる。佐田は大学生やけど、今は平山の店で働いとる。

田口:大学行ってねえのか?

佐田:はい、大学つつたって私立のウンコみたいなどこなんで。

宗像:年少の3人が車出し担当。あのイケメンが高原。現役大学生で元ホストや。メガネが平野。

平野:これ見ますか?(後ろにあったカバンを取る)

(カバンのチャックを開ける)

(瓶に入った猫の頭を取り出す)

田口:なんだこれ…。

堀内:うっわ…。

平野:すごいいっしょ。

宗像:最後に、藤島。あいつはまだ 19。喧嘩はあんま強く無いけど、頭はキレル。こいつはマジで逸材。パツとの見た目ではワルには見えんけん、情報収集とか主にやらしとる。以上がメンバーや。メンバーのそれぞれがチームもったりするけ、総勢でいうと 30 人以上にはなるな。

堀内:結構でかいんっすね…。

藤島:俺たち、どんどんデカくなって行って嬉しいけど、ヤクザに目つけられないといいですね。大川組とかこの辺ウロウロしてるでしょ。

新宮:大丈夫だろ。いざとなったら松山んところに頼ればいい。

松山:迷惑かけないように言われてるんですからね。一応。じいちゃんこのシマなんで。

平山:(平山が手を上げる) リーダー、金のことで、いい話あるんですが。いいっすか。せっかくみんな集まってる場ですし。

###

(先ほど平山たちから強盗被害に遭った女子大生の家に警察が来ている。回転するパトランプが家の壁に映っている)

近所の住人 1:こんな遅くに、一体何事?

近所の住人 2:アパートの女の子になんかあったみたいね。最近変な人多いからねー。

近所の住人 1:一人暮らしでしょ?

近所の住人 2:あの子、いつも夜遅く帰ってきてたでしょ。目つけられたんじゃないの? 怖いわねー。

(長い一夜が終わる)

###

(一ヶ月後。平山の祖母が店の経営から手を引くことに合わせ、新宮の経営するバーの系列店として、建物はそのまま、新たに店を開いている。GAS のメンバーたちがスタッフとして働き、新たな活動拠点の一つになっている。平山が店の経営を任されている)

(佐田が前の通りで客引きをしている。男 2 人をひっかけ、店に案内する)

佐田 お兄さん、こういうお店初めてですか。

男:そうなんすよね、俺ずっと行って見たかったんすけど、こいつがチキンなんでビビっていかないんですよ。

男 2:ふざけんな、違いますよ、こいつこそ口だけなんっすよ。

佐田:そうですか。当店はそういった初めての方も大勢おみえになりますし。きっと満足頂けると思います。

男 1:まじっすか。

男:システムがよくわからないんですけど、料金はどんな感じになるんですか?

(三階建てのビルの前に着く)

佐田:このビルの二階になります。

男 1:うわあ、俺こういう風俗ビル入るの初めてですわ。

男 2:リアル龍が〇くですね。

(二階。エレベーターの扉が開く)

男 1:一階はなんなんですか。俺一階だと思ってました。

佐田:一階は系列店でストリップバーです。九州ではあまりないポールダンスがあるんですよ。よかったらそちらも是非。

男 2:いやー、ちょっと俺らにはハードル高いっすね、なあ。

男 1:ああ、初めてなんで、まずはこっちで。

(ドアを開け中に入る)

(ガールズバー。平野、高原、松山が接客している)

佐田:どうぞ。平野!

平野:いらっしやいませ。2名ですか。

佐田:ご新規さん。

平野:奥のボックス席にどうぞ。女の子ご指名ありますか?

男2:あ、碧さんでお願いします。

男1:何ニヤニヤしてんだよ。

平野:碧ですね。承知いたしました。ごゆっくりどうぞ。

男2:すげえな、中こんな感じなんだな。

男1:新しい世界だなー。

女の子1:こんばんわー。今日は来てくれてありがとうございます。碧です。よろしくお願いします。

男2:あ、ああ、いや、こちらこそ、よろしくお願いします。

(佐田が再び店外に出て行く。高原がグラスを整理している)

(男2人が楽しく飲んでいる)

(男2人が料金を支払い店を出ようとする)

男1:ありがとうございます、また来ます!

男2:初めてでしたけど、めっちゃ楽しかったっす。

佐田:満足ただけて嬉しいです。

(店の奥から松山が歩いてくる)

松山:佐田さん、碧さん帰るみたいっす。俺送ってきます。

佐田:おう。

(松山が女の子を伴って出て行く)

佐田:本日はどうも、ありがとうございました。あのもし良かったら、これ、下の店で使えるので良かったらお持ち下さい。今日おいでになるんでしたら、特別にサービスさせていただきます。

男1:まじっすか、ありがとうございます!

男2:お前、明日仕事だっけ、もう時間厳しい?

男1:仕事やけど、そんな早くない。

男2:せっかくやけ、下も行ってみらん?

男1:まじ?行っちゃう?

###

(一階のストリップバー。一階では田口、堀内、古畑がボーイをしている。客の男たちが盛り上がっている)

男1:それで、どうなったと思います?

女の子2:えー気になるうー。どうなったんですか?

男2:先生が、全員出てこい!つって、そこに隠れてた全員が両手上げて出てきたんっすよ。

女の子2:うわあーマジですか!漫画みたいな展開ですね。

男1:もうみんな降参って感じで、もうしません!って言ったらしいですよ。

女の子2:超面白いですね!

###

(ストリップバーで飲み終わり、田口が請求書を持ってくる)

男2:え、そんなにかかるんですか?

男1:でも…20万て、持ってるわけじゃないじゃないですかそんな大金。

田口:なんだ、払えねえのかこら。

男2:持ってないですって。

堀内:カードあんだろ。下ろして精算しろや!

男1:い、いやあ。

(肩に手を回して)

古畑:近くにコンビニとかあるからさ、行こうぜ。

男2 はい…。

###

(宗像のスクラップ工場の事務所。宗像、新宮、吉川が座って話している)

新宮:しかし井上んところよくテナント譲ってくれたな。もともと爺ちゃん婆ちゃんの店だろ。あんな店にして何も言っていないのかよ。

宗像:もともと景気が悪かったらしいからな。店たたむことは決めてて、テナントの権利を丸ごと平山に譲ったらしい。軽犯罪を多く重ねるより効率よく金入っていいよな。

新宮:軽くは無いがな…。

吉川:でも、こんなぼったくって大丈夫なんかね。警察も目つけるんじゃないん。

宗像:松鳳会の後ろ盾があるからな。売り上げの3割納めるだけでいいとか、まじ優しすぎだろ。

吉川:松山んところか。流石にあっこのシマだし、無許可でやるのはまずいな。

宗像:まあ、出来るだけ関わりたくはないというのが本音だ。

新宮:売り上げの調子だと、店の改装費用も早めにかたつきそうだな。

(藤島が事務所をノックし入ってくる)

藤島:失礼します。お疲れ様です。

宗像:おう、おつかれ。今日は仕事遅かったな。今忙しいのか。

藤島:いや、実は親父とトラブルっちゃって。残業って言って誤魔化してたんですけど、街で田口さんたちといるとこ見られちゃったんですよ。

吉川:そういやあ、お前の親父警察官やったな。

新宮:親父にはどこまでバレたんだ。

藤島:まだ、俺が悪い友人と付き合ってるってぐらいにしか思ってないと思います。

(0:00 頃)

(平山のぼったくりバーの明かりが消える。車出し担当の松山、平野、高原が店の前に車を横付けしている)

(車にメンバーが乗り込む)

###

(翌日、22:00 頃)

(高原がドンキの駐車場に車を停めて携帯をいじっている)

(買い物を終えた女性2人組が店から出てくる)

(高原が車のエンジンをかける)

(平山と佐田が店から出てくる。高原の車に乗り込み、発車する)

高原:西側ですかね。

(女性2人組が乗った車の後から高原の車がつける。料金を支払って出庫する)

平山:うわ、右折レーンかよ。まさか都市高速乗って帰るんじゃないよな。

佐田:ナンバーは?

高原:一応地元ですね。多分ないとは思うんですけどね。

(女性2人組が乗った車、右折後、都市高速乗り口を素通りする)

平山:セーフだな。

佐田:多分近所だろ。買い物に行く下駄がわりだろ。軽だし。

(国道を10分ほど走り、住宅地へ入っていく)

高原:この辺っぽいですね。ここ俺あんま好きやないんすよね。

平山:何で。

高原:ここ、一通と一旦停止多いんで、警察がよく巡回してるんっすよ。みんなよくやられてますわ。

(高原の車が十字路を通過する。高原の進行方向とは違う10メートルほど先、警察車両がライトを消して駐車している)

警察官1:ん?あれは。

警察官2:どうしたんですか。

警察官1:今の車、追ってくれ。パトランプはつけなくて。(ライトをつけ、走り出す)今通ったワンボックス、ヴォクシーだったよな。

警察官2:はい、白のヴォクシーですね。

警察官1:最近一人暮らしの女性を狙った強盗事件が続いたろう。

警察官2:ありましたね。ひったくりもありました。

警察官1:同一犯の可能性があるんだ。そのうち数件で白のワンボックスが目撃されてるんだ。

警察官2:そうなんですね。

警察官1:でもすごいのが、近くの防犯カメラには写ってないんだよな。それらしい車が写っていたのは犯行現場からあまり近くないスーパーとかだ。防犯カメラのある場所さえ把握してるとすれば相当すごいがな。

(高原の車に近づく)

警察官2:もっと近づきますか?

警察官1:ナンバーの文字見えるか。

警察官2:あ、見えます。えーと、北九州534 あ 9762。

警察官1:ありがとう。んー。

警察官2:どうかしました?

警察官1:以前情報提供されたナンバーとは違うな…。あ、少し車間離そう。

(高原の車内)

高原:まずいっす。後ろ警察です。

平山:まじで?やばくね?

佐田:何してんだよ高原!

高原:大丈夫っす。追ってるわけじゃないでしょ。あれいつもここ回ってるやつですよ。

平山:まあ、宗像が作った偽造ナンバーだから、番号控えられても大丈夫か。

高原:偽造であることがバレたらやばいっすけどね。

(警察車両が高原の車を追うのをやめ、再びパトロールを始める)

佐田:来なくなったぞ。

高原:助かりました。多分普通の巡回だと思います。

(さらに5分ほど走り、三叉路に出る。女性2人組の車が右折した後、別の車が左折して、2台の間に入る)

平山:前、見えるか?

高原:はい、見えます。

(女性2人組が乗った車がマンションの駐車場に入っていく)

(高原が車を路肩に停める)

佐田:うわあ、ここかよ。ここじゃ丸見えだな。

平山:中までついていくか。いや、エレベーターのカメラに写っちまう。無理だ。

高原:諦めますか。

佐田:道を聞く振りしたらどうすか？

平山:…それいいな。

高原:俺、どうしたらいいっすか？

佐田:ここに停めてまっとなってくれ。

高原:上手くいきますかね…？

(平山と佐田が駐車場へと出て行く)

平山:あの、すいません。二丁目の救急病院ってこっから近いですか？

女性1:…二丁目ですか。二丁目だったらもうすぐそこですよ、この通りは四丁目なんですけど、道路を挟んで向こう側は二丁目三丁目です。

佐田:ここら辺よく分からなくて。ちょっと教えてもらっていいですか？(表の道路に誘導する)

女性2:この道をまっすぐ出て左なんですけど、一方通行なので、一回右に曲がって…。

(平山と佐田が同時に銃を出し、後ろから首を絞め、こめかみに銃を当てる)

平山:声出すな。黙って車に乗れ！

(高原の車が女性2人を乗せて走っている。平山が2人の手足を縛って拘束している。佐田が3列目から銃を突きつけている)

女性2:どこに連れて行くんですか！

佐田:黙って乗ってろや。

###

(5分ほど走った頃、後ろから警察車両が走ってくる。近づいたところで、パトランプを点灯させる)

警察官3:前の白いヴォクシー、止まりなさい。左に止まって。

平山:何してんだ高原！急げ！

高原:急いでますよ！

佐田:遅すぎだろこの車！おい、なんとかしろよ！

(中央分離帯の間から転回し逆方向に逃げる)

(スピードが100キロを超える)

平山:都市高速乗るのか？

高原:絶対乗りませんよ。出口塞がれて終わります。側道から入って逃げます。

(側道から住宅地へ入る)

高原:佐田さん、新宮さんに連絡して下さい。

佐田:分かった。(新宮に電話をかける)

(月極駐車場に入って向きを変え、ライトを消す)

(追ってきた警察車両が前を通過する)

高原:そのまま行ってくれ…。

(気づかれずに警察車両が走り去っていく)

(急発進し、駐車場から脱出。最初の角を右折。その後すぐに左折。大通りに復帰する)

###

(宗像、新宮、吉川がファミレスで食事をしている。新宮が電話で話している。宗像、吉川は席を立っている)

(宗像と吉川がドリンクバーから飲み物を持って戻ってくる)

新宮:おう。頼んだぞ。(電話を切る)

宗像:どうかしたのか。

新宮:平山たちがしくった。警察に追われとるらしい。

吉川:うわまじか、運転誰?

新宮:高原。ヴォクシーやね。

(店員が近づいてくる。声のトーンを落とす)

店員:お待たせしました。イチゴのパンナコッタでございます。

吉川:あざっし。…で、大丈夫なんか?

宗像:誰か行かすか。

新宮:そうだな、平野に電話してみるか。

(雨が降りだす)

(新宮が平野に電話をかける)

###

(平野が車を走らせている。高架の下の目立たない場所に駐車)

(平野が携帯をいじる)

(高原の車が後ろに駐車する)

(平野、高原が車から降りる)

平野:大丈夫か。

高原:すいません。

(平山が窓を開ける)

平山:悪いな。どうすればいい。

平野:もう女は無理です。金だけ奪って逃げましょう!…せっかく今日性欲発散できると思ってたのに。しっかりしてくださいよ。

佐田:…おい!持ってる金全部出せ!

平山:お前ら、何かしゃべったらマジで殺すぞ。

(車のドアが開き、女性2人が走って逃げる)

平野:みんな、俺の車に乗り換えて下さい。あ、あと高原、偽ナンバー外しとけ。

(高原が偽造ナンバーを外す)

(3人が平野の車に乗り換えて走り出す)

平山:ヴォクシーどうするんだ。

平野:置いてたほうがいいっすね。

高原:ええ。多分置いてて大丈夫っす。あそこ、駐車禁止じゃないんで。夜通し停める人結構いるんすよ。

###

(23:00頃、吉川と藤島が市内のバーで飲んでいる)

(16、7歳の少年がカウンターで飲んでいる)

(吉川と藤島が少年の両側に座る)

吉川:お兄ちゃん1人?

少年:はい。

吉川:若いよね?二十歳超えてる?

少年:ああ、はい。

吉川:これやってみる?

少年:なんですかこれ?

藤島:外出ない?

(3人が店の外に出る)

(吉川がダウンのポケットからハーブを取り出す)

吉川:スパイダーセックス。

少年:ヤクですか?

藤島:いや、違う。

吉川:EDの治療に使うやつや。これ使ってみ、ギンッギンになるで。

###

(23:00頃)

(古畑のジム。松山と堀内が筋トレをしている)

(地元のヤンキーたちが集まってたむろしている)

堀内:っふう。流石に200はきついな。

松山:背筋200キロとかまじ半端ないすわ。

堀内:田口!そろそろ帰ろうや。

(田口と古畑がスパーリングをしている)

田口:うるせえ!今試合中や。

古畑:このラウンド終わるまででいいっすか?

田口:その前にKOしたるわ。

(田口、古畑がスパーリングを続ける)

###

(翌日の午前、高原と平野が警察から追われた際、置いていった車を取りに来ている)

平野:あるな。

高原:はい、良かったっす。

平野:今から2台で宗像さんここに一回帰って、車置いてから俺の車で出ろぞ。

高原:はい、分かりました。

(平野がヴォクシーの後ろにアストロを止め、高原が車から降りる)

(高原がヴォクシーに乗り込み、2台が発進する)

###

(11:00頃)

(吉川の経営するタトゥーショップ。警察の捜査が入っている)

(店の周りに警察車両が数台停まっている)

(吉川が客にタトゥーを彫っている)

(店の壁には様々なデザインの絵柄が施されている)

吉川:だから知らねえって言ってんだろが。

警察官 4:悪いんですが、店の中、調べさせてもらいます。

吉川:勝手に俺の店ん中上がり込むな!

(藤島が店から出てくる。警察車両の間を縫って歩いて行く)

(ハーブが押収され、ダンボールに詰められていく)

###

(17:00 頃)

(宗像の事務所。宗像、新宮が座って藤島の話をしている)

藤島:吉川さんの店が摘発されました。

新宮:摘発?調べが入ってんのか。

藤島:はい。家宅捜査やってます。多分、吉川さん捕まりますよ。

宗像:…。

藤島:俺らのことは口に出さないと思いますよ。吉川さんのことですから。

宗像:お前、吉川さんと一緒にいたのか?

藤島:はい。でも大丈夫です。タトゥーの客の振りしてましたから。警察から声かけられる前に出て行きましたよ。裏口から出るより、堂々と表から出た方がかえっていい感じでした。

宗像:お前勇氣あんな。親父いたらどうすんだ。

藤島:親父は担当部署が違いますから、いることはまずないです。

新宮:…リーダー。どうするよ。

宗像:井上の店の金が多いから当分は大丈夫だが…。

藤島:これ、ちょっとは足しになりますかね。

(藤島がコートの裏地からハーブを大量に取り出す)

藤島:全部じゃないですけど。持ってこれるだけ入れてきました。

新宮:お前…。

(新宮に着信が入る)

新宮:もしもし。おう。

平野:お疲れっす。今、丸山ビルの近く着きました。寄り道せずに帰ってくると仮定すると後 10 分くらいしたら帰ってくる頃じゃ無いかと。

(平野、高原、平山、佐田が目をつけた女性を襲うために待ち伏せている)

藤島:バレませんかね。

新宮:おい、お前らどこで待機してんだ。

平野:目の前の道が一通なんで、身動きが取りづらいかと思ったんで、同じブロックの角にある公園に横付けします。

新宮:そうか。藤島、公園側に横付けする感じで大丈夫か。

藤島:はい、その方が身動き取りやすいし、いいと思います。

新宮:どうやってやるんだ。

(新宮が電話を切る)

藤島:あそのマンションはエレベーターに防犯カメラ無いんです。

宗像:通路とかにもか。

藤島:はい、大丈夫です。築 30 年くらいで、管理もろくにされてないボロマンションです。一応俺も見てきました。

###

(女がマンションの前の道を歩いてくる)

平野:来た。

(佐田が車から降り、携帯を弄りながらマンションの近くに行く)

(マンションの入り口に立つ)

(女が佐田の前を通り、マンションに入っていく)

佐田:こんにちは。

女性:あ、こんにちは。

(女性がエレベーターに乗り込む)

(佐田が電話をかける)

(エレベーターの中。女性が一人で乗っている)

(4階に到着する)

(エレベーターの扉の外側で待ち構える平山と佐田)

(3階の一室から、男子大学生が出てくる。高原がそれに気づく)

高原:うわ！やべ！

(高原が階段で3階に駆け上がる)

(男子大学生がエレベーターのボタンを押す寸前、高原が後ろから羽交い締めにする)

大学生:ちょ！何するんですか？

高原:うるせえ！黙って言うことを聞け！

大学生:お、お前…。

(大学生が高原の顔を見る。その男子大学生は、高原と同じ大学に通う学生だった)

(ハッとする高原)

大学生:お前こんなところで何やってんだよ。

高原:…。(締めていた手を離す)ここに住んでたのか？頼む、誰にも言わないでくれ。

大学生:何やってんだ一体。

(エレベーターが降りてくる)

女:ぎゃー！！やめて！離して！！

平山:騒ぐな！

(エレベーターが3階を通過する)

大学生:(エレベーターのドアを叩いて)おい！何してんだお前ら！！おい！おい！

(エレベーターの扉をバンバンと叩く)

大学生:大丈夫か！おい、俺警察に言うからな。(携帯電話を取り出す)

(高原が護身用に携帯していたナイフで大学生を刺す)

(大学生が倒れる)

高原:はあ、はあ、(動揺する高原)

(大学生が立ち上がり、背後から高原を捕まえる)

高原:うおおおお！！

(高原が絶叫しながら大学生を数回刺す)

(大学生が強くしがみついたために爪が食い込み、高原の首から出血)

高原:(慌てて平野に電話をかける)はあ、はあ…井上さんたち降りていきました！

(平野がマンション前に横付けし、平山と佐田が抵抗する女性を抑えつけカバンを奪い取る)

(倒れた大学生の血液が高原の足元に流れてくる)

(呆然と立ち尽くす高原)

高原:あ!

(高原が階段を駆け下りてくる)

平野:何してんだ高原! 急げ!

(高原が助手席に乗り込み、車が走り出す)

(車内の会話)

井上:今回は上手くいったな。

佐田:藤島が調べたところは間違いねえな。

平野:いやあ、楽しみっすわ。どうした高原。

(高原が憔悴しきっている)

###

(一週間後。田口と堀内が路地を歩いている)

(自販機の前に立ち止まる)

田口:コーヒー飲まねえ。

堀内:おう、いいな。

(自販機で缶コーヒーを買い、飲む)

(田口は自販機に寄りかかる)

(堀内は地面にコーヒーを置き、しゃがんで携帯をいじる)

田口:あつま! こんなもん?

(男が2名近づいてくる)

(カラン、ビシャ!)

(男の1人が堀内のコーヒーを蹴飛ばし、中身が堀内の服にかかる)

田口:おい、てめえふざけんなこの野郎。

(田口が男の胸ぐらを掴む)

(堀内がゆっくりと立ち上がる)

堀内:俺のコーヒーどうしてくれんだ。あ?

(男たちは、南区に拠点を置く暴力団、大川組の構成員)

(堀内と田口のタトゥーにいちゃもんをつける)

組員 1:何そんなもん出して堂々と歩いてるんだ? お前どこのもんだ。

堀内:うるっせえな。ファッションで入れてんだよ。

組員 2:あんまこの街で調子乗ったことしてたら容赦しねえからな。

(堀内は無視して立ち去ろうとする)

組員 1:ちょ待てよお前! どのもんだって聞いてんだよ。

堀内:しつけえな、このチンピラが。とっとと帰れや。

(田口と堀内が大川組組員たちと睨み合う)

組員 2:うるせえクソガキ。

田口:あ?

###

(その頃、松山と藤島は焼肉屋で話している)

藤島:ここの肉美味いっすね。

松山:ここいいだろ。ここ、俺と一緒に来ればタダで食わしてくれんだ。

藤島:ああ、そういうことっすね。まあでも、ここに食いきてる人たち、店がヤクザが関わってるなんてほとんど知らないでしょうね。

松山:まあな。

藤島:あ！松山さん！カルビが！

(黒焦げになったカルビ)

松山:いい具合に焼けたな。ほい、やるわ。

(藤島の器に焦げた肉を投げ入れる)

藤島:いらんすよ！炭やないっすか。

松山:…それで、本題なんやけど。

藤島:はい。

松山:お前、このまま宗像さんと一緒にやるつもりか？

藤島:？

松山:俺ら、調子乗りすぎて、大川組から目つけられてるんよ。いや、うちの松鳳会系の組織からも鬱陶しがられとる。…遅かれ早かれぶっ潰される。

藤島:マジっすか。

松山:ああ。早めに抜けといたほうが正解かもしれないぜ。

藤島:…。(水を飲む) 抜けてどうするんすか。

松山:そう、それなんやけど。詐欺とかやんねえか？

藤島:詐欺事業…。

松山:オレオレ詐欺から架空請求まで幅広くやる。結構安定して儲かるらしい。うちの会長の紹介で、経験者来てくれるらしいけ。ノウハウ学んでから、あとは俺らでやれる。事務所もこっちで用意できるらしい。

藤島:またなんで、俺に。

松山:お前、頭いいだろ。勉強とかそういう意味じゃなくて。お前と組めば上手く行く気がするわ。

藤島:まあでも、宗像さんには世話になったからっすね。今すぐ抜けるつつうのもちょっと。

###

(田口と堀内が大川組組員2人をボコボコにしている)

田口:こいつら…クソザコだな。これでもヤクザかよ。

堀内:(組員の髪を掴んで) おいてめえ、次来たらマジで殺すぞ。

田口:お前ら、大川組だろ。自分のやったこと分かってんのか？松鳳会に喧嘩売ったんだぞ。

堀内:てめえらみたいな弱小ヤクザ、瞬間的に潰してやるよ。

組員1:しょ、松鳳会…。

(田口と堀内が男たちを放置して立ち去る。数分後、人が通りかかる)

通行人1:おい！大丈夫か！

通行人2:お、俺救急車呼ぶわ！

###

(焼肉屋。松山と藤島が会計を済ませている)

藤島:ほんと申し訳ないっすわ。ごちそうさまです。

松山:気にすんな。

###

(一週間後。松鳳会総本家。会長である松山の祖父と宗像が話している。会長は椅子に座っており、付き人が数名ついている)

(会長が電話をかけている)

会長:ほんなら、よろしゅう頼みますわ。ええ、事務所の件はこちらから言うときますけん。はい、失礼します。

(電話を切る)

会長:派手にやったらしいな。いくらチンピラ言うても、2人も病院送りやからな。

宗像:やっぱり間違い無いんでしょうか。

会長:ああ、お前とつるんだるやつがやったらしいで。

宗像:すいません、ご迷惑おかけしました。大川組のことは一応うちの人間には話してはおったんですが。

会長:そんなん言うたってやってしもうたもんはしょうがないろうが。

宗像:申し訳ありません。何かありましたら責任は取らせて頂くつもりでいます。

会長:ええんやって。おおごとにはならんと思うで。

宗像:あいつら、会長や松鳳会のこと口に出しとるんでしょうか。

会長:言うたらしいで。それで、あっちの組長から詫びの電話があつたんや。ついさっきや。

宗像:…そうですか。申し訳ありません。

会長:まあええんや。…宗像。

宗像:はい。

会長:…お前とこの構成員、使えるんか。

宗像:あ、はい。かなり強者が揃ってはいますが。

会長:そうか。せやったらな宗像、大川組潰したれ。

宗像:はい？

会長:お前とこの人間、大川組にやられるやろからな。やり返したれ。わし公認や。

宗像:いいんですか。

会長:ああ、大川組とは喧嘩せんようにはしよったけど、ええ機会や。

宗像:分かりました。

会長:大川組潰して、あいつらのシマに新しい事務所開けや。

宗像:事務所ですか。

会長:わしんとこ来てええで。面倒みたるわ。

宗像:…。

会長:なんや、いやなんか。

宗像:いえ、でもいいんですか。

会長:わしが良い言うとりんや。受け取ってくれや。

宗像:ありがとうございます。頑張ります。会長、大川組は俺たちだけで潰します。俺らのこと、いいように使って下さい。会長には迷惑かけませんので。

###

(数日後。宗像の事務所。事務所にメンバーが集まっている)

宗像:というわけだ。本当なら田口と堀内には腹切りを申付けるところだが、事情が変わった。2人には先陣切って責任果たしてもらおう。

田口:任せろリーダー。

堀内:ぶっ潰したるわ。

宗像:俺らが勝てば、松鳳会から直々に賞金 1000 万だ。絶対取るぞ。

新宮:俺たちは 35 人。これを 2 つに分ける。リーダー、俺の二手だ。

藤島:俺らだけで事務所に踏み込むんですか。

宗像:ああ。会長からの助力は頼んでない。

松山:宗像さん、俺、会長からこれだけでも持って行けて預かって来たんですけど。(カバンを取って開ける)

拳銃、古いやつもありますけど。各自持っとくだけ持っときましょう。

佐田:もしかして今回は全部弾が実際に発射される銃なのか。

松山:はい。

新宮:藤島の調査で、奴らが大勢事務所にいる時間帯が分かってる。北区にある大川組の事務所は 2 つだ。藤島と古畑にはそれぞれ前もって現場付近に待機してもらって、俺が連絡取りあう。

古畑:はい。

藤島:はい。

新宮:藤島、お前は川沿いの建設事務所。古畑は港の近くのビルで待機してくれ。松山、高原、平野、車出し頼む。

松山:はい。

高原:はい。

平野:了解っす。

宗像:田口と堀内欲しいんだがいいか？

新宮:欲しがらん一。せめて分けようぜ。まあ、古畑のジム通ってる奴らも来るからな。しょうがねえ。

堀内:んで、陣割りはどうなるんっすか。

新宮:リーダーのところに田口、堀内、高原。古畑の待機してる港よりの事務所で。俺のところに平山、佐田、松山、平野。俺らは藤島の方に行く。平野、こっちは人数多いから、お前は古畑んとこの子たち乗せて行け。

平野:うっす。

新宮:以上だ。明日の 17:00 にここに集合だ。ちゃんと昼飯食ってこいよ。

(メンバーが事務所を後にする)

宗像:ヤクザ相手となると流石に気合入るな。

新宮:そうだな。(ライターでタバコに火をつける) 吸うか？

###

(翌日。藤島が大川組事務所の前に待機している)

(大川建設の看板)

(電気のついていない事務所)

藤島:人気がないな…。

(白い車が一台事務所の駐車場に乗り入れる)

(組員が 1 人車から降り、事務所の鍵を開ける)

(藤島が新宮に電話をかける)

藤島:もしもし、今いけます。あ、車が 1 台しか帰ってきてないんで、向かいにある月極に停めてください。

(松山と平野の運転する車が事務所に乗り入れる)

(銃を持った平山と佐田が先陣を切る)

(平山が事務所のインターホンを押す。先程の組員が出てくる)

組員 3:はい。

平山:(銃を突きつけ) 中入れろ。

組員 3:なんだてめえ。

(佐田も銃を出す)

組員 3:…。(駐車場を見る)

(全員銃を出す)

平山:おい! 入れろっつってんだろ。

組員 3:どうぞ。

(組員 3 が事務所のドアを開け中に入る)

(組員 3 がカウンターの内側に置いてある銃を取り出し、平山に向けて発砲する)

(平山は間一髪かわす)

(平山の後ろから佐田と新宮が発砲し、組員 3 が死亡する)

新宮:おい平野、ブレーカー探せ。古畑んとこの子たちは外で待たせとけ。

平野:はい。

(平野が事務所の電気を全部消す)

###

(古畑がもう一つの大川組事務所の付近で電話している)

(ビルの三階の事務所。明かりがついている)

古畑:分かんないっすね。明るいんで、誰かいるとは思うんですけど。

宗像:出入りはあるか?

古畑:俺が見てる間は無かったです。

宗像:そうか。

古畑:どうします?

宗像:もう 30 分様子見てるからな…。無理やり踏み込むしかねえか。今から向かう。

古畑:分かりました。

(宗像たちがビルの階段を上がっていく)

(事務所のドアを開ける)

(組員が数名ソファに座って談笑している)

(田口、堀内、古畑、高原が、座っていた組員の前に立ち、射殺する)

(宗像が事務所の奥に歩いて行き、扉を一枚ずつ開けて小部屋を確認していく)

(トイレの水が流れる音)

(宗像が立ち止まる)

(トイレに歩いていく)

(組員が前かがみで手を洗っている)

(宗像が背後に回る)

(組員が顔を上げて鏡を見た瞬間、後頭部を銃で撃ち抜く)

(鏡に血が飛散する)

(宗像たちがビルの階段を降りていく)

###

(大川組の建設事務所、他の組員が次々に帰ってくる)

(組員が車から降りてくる)

組員 4: あら、長江のやつ、先に戻るって言ってなかったか。

組員 5: 車はあるぞ。どっか出てんのか。

(組員たちが事務所に入ってくる)

(組員 4 が電気をつけようとスイッチを押すが、つかない)

組員 4: あら。

組員 5: おい、暗えよ、早く電気つけろよ。

組員 4: つかねえんだよ。

組員 5: あ？ (携帯で明かりをつけ、スイッチの近くに歩いていく)

(銃を持った平山に気づく)

組員 5: 誰だ！！

(暗闇に潜んでいた新宮、平山、佐田、平野、松山が一斉に発砲する)

(事務所から数名が走って脱出する)

(駐車場で、古畑のジムに通うチンピラたちが待機しており、出てきた組員たちを射殺する)

(事務所から新宮たちが出てくる)

新宮: ご苦労。行くぞ。

(車に乗り込み、松山がエンジンをかけ、出発しようとする)

(事務所の駐車場に別の組員の車が入ってくる)

松山: うわ、まだいんのかよ…。

(戻ってきた駐車場の真ん中に車を停める)

(運転手の男が車から降り、松山に話しかける)

組員 6: 何やってんだてめえら。

(事務所前で倒れている組員たちを目にする)

組員 6: てめえら何しやがっ…！！

(高原の運転する車が猛スピードで駐車場に入ってくる)

(組員 6 を車で撥ねとばす)

(車から宗像が降りてくる)

(宗像と新宮が痛がる組員 6 を上から見下ろし、宗像が射殺する)

(田口が車のドアをこじ開け、後部座席に座っていた残りの組員に銃を向ける)

(組員たちも田口に銃を向ける)

(堀内が反対側から金属バットでガラスごと隣の組員を撲殺する)

組員 7: うっ！

(銃を向けた組員が横の音に反応して一瞬目を逸らした瞬間、田口が立て続けに発砲し、射殺する)

宗像: 大丈夫だったか。

新宮: ああ、こっちは無傷だ。

藤島: 警察来る前に早くずらかりましょう。

(全員が車に乗り込み、事務所を後にする)

###

(二週間後。23:00 頃、平山の店)

(業者を装った大川組組員が数名店に入ってくる)

古畑:いらっしゃいませ。

組員 8:すいません。不動産業者のものですが、店長、おられますか？

(組員 8 が古畑の後についていく)

古畑:お疲れ様です。店長！お客様です。

(店の中から井上がやってくる)

井上:はい、何でしょう。

(井上が店の外に出る。組員 4 が井上を睨みつける)

(組員 8 が井上の後ろからタオルで顔と口を塞ぐ)

井上:…！

(もがく井上を組員 9 が正面からナイフで数回刺す)

(不審に思った古畑が店の外に出ようとする)

古畑:あ、良かったら中に…。

(組員 8 がすぐさま古畑に数発発砲する。古畑は店の奥に走っていきこうとするが、執拗に撃ち込まれ死亡)

(店の中が悲鳴に包まれる)

(カウンターにいた田口を組員 9 がワインボトルで殴り、後ろから羽交い締めにする)

(組員 8 が田口の眼球に撃ったばかりの銃をめり込ませる)

田口:うわー！

組員 8:お前らよく俺たちをコケにしてくれたな。

田口:誰だお前！

組員 9:うるせえな。黙れクソ野郎。

(ジンを開け、田口の口にジンの瓶を咥えさせる)

田口:何すんだてめえ！

(多量に酒を飲まされ、嘔吐しながら酒を強制的に流し込まれる)

(田口の意識が朦朧とし始め、白目を剥く)

男 8:いいぞ。やれ。

(組員 8 がバーナーで火をつけ、田口の口に近づける)

田口:やめろおお！！

(胃と食道が炎上し、絶叫した衝撃で顎が外れる)

(組員たちが水をかけ鎮火させる)

(横にいた堀内が土下座する)

堀内:すいませんでした！許してください！(涙と鼻水が出る)

組員 8:こいつ、変な髪型してんな。毒キノコみてえ。

組員 9:おい、髪型変えたるか。(髪を掴む)

(組員 8 が田口に飲ませていたジンを堀内の頭に流しかける)

(組員 9 がガスバーナーで堀内の髪に火をつける)

堀内:あっじいじい！！

組員 8:これならパーマの機械もいらねえな。

(堀内がもがきながらのたうち回る)

組員 9:騒がしいな。

(組員 8 が堀内の頭を濡れたタオルで包み、締め上げる)

堀内:う…。

(そのまま店のテーブルに思い切り頭を叩きつける)  
(堀内が動かなくなる)  
(堀内に数発発砲する)  
(組員たちが店から出る。表通りに走って行き、車で逃走する)

(近くの通りで平野がキャッチをしている)  
(男性2人組が前から歩いてくる。実は先程とは違う大川組組員)

平野:あ、お兄さん、今から行くところか決まっていますか？

組員 10:いやあ、こういうところ初めてなんでわからないんですよー。

組員 11:安くて飲めるところってありますか。

平野:あ、それでしたら、ぜひ僕の店来てください！女の子たちも可愛い子集めてるんで、絶対満足していただけます。

(2本目の路地に入っていく)

(組員 10 が平野のこめかみに銃を当てる)

平野:な！

組員 10:俺は動物虐待する奴許せねえんだよね。

(組員 11 が平野を羽交い締めにする)

(車が路肩に停まる。組員が平野を無理矢理乗せ、発車する)

###

(海岸線の国道。車の後ろにある牽引フックにロープが結ばれ、ロープの先には平野の足が縛られている)

平野:おい待て！おい！

(平野を引きずりながら車は走り出す)

(数百メートル進んだところで、平野の服が裂け始める)

平野:うわあああああああ！！やめろおおおお！！

(体がアスファルトに切りつけられていく)

(道路に血痕が残っていく)

(平野が必死に手を伸ばし、ロープを解く)

平野:や、やった…！

(平野が道に転がる)

(立ち上がろうとし、顔を上げた瞬間、後ろから走ってきた一般車両に顔面を轢かれる)

(車のフロントガラスに血が霧状に吹き掛かる)

###

(一週間後。15:00 頃)

(宗像の事務所。宗像、新宮、藤島が座っている)

新宮:平野やったのも大川組の奴らだろ。

宗像:多分な。

藤島:誰かが居場所教えてるんですかね。

新宮:ちょ、喉乾いたわ。

(新宮が事務所横の自販機でコーヒーを買ってくる)

新宮:ほい、飲むか。(飲み物を宗像に投げ渡す)

宗像:悪い。

新宮:佐田と高原だけたまたまあの日店にいなかったからまだ無事だ。しばらく出歩かないように忠告しといた方がいよいよな。

宗像:出歩くの最小限にしたってあいつら、居場所特定してくるからな…。

新宮:いつかここにも来るんじゃないかねえのか。

宗像:…。

藤島:リーダー、話題変わりますけど、いいっすか。

宗像:ん？

藤島:俺、家出しました。勘当ですよ。二度と家の敷居またぐなって言われました。親父と言い合いになって。ハーブやってんのバレちゃったんっすよ。親父、俺が近頃幅きかせてる半グレの仲間入ってんじゃないかって、色々聞かれました。俺は何も言わなかったっすよ。

新宮:そうか、会社は？辞めたのか。

藤島:いや、とりあえずまだです。でも、上司とかクソみたいな奴しかいないんで、長く勤めるつもりはないです。

宗像:お前…。大丈夫なのか？行く当てあるのか。

藤島:いや、まだ無いですね。まあ、働いてた分少しは貯金あるんで、一人暮らししようと思います。

(陽が沈む。事務所の入り口に置かれた缶コーヒーの空き缶に蜻蛉が止まっている)

###

(数日後。松鳳会本家。会長と松山が話している)

松山:最初から1000万やる気なんてなかったんすか。

会長:わしは先代から受け継いだこの組とこの町を守る義務があるんや。変ないざごぎ起こされたら堪らんわ。大川組とあのガキども、一緒に消えてくれれば一番ええ。

松山:自分の手は汚さずに、邪魔なやつらを排除するんすか。

会長:お前もこの世界で飯食って行くんやったらそんくらいの覚悟がないといかん。

松山:…。

会長:何や。

松山:宗像さんと新宮さんだけでも、助ける方法無いんですか。

会長:宗像はなかなかええ奴や。わしからも誘うとるんじゃが、あいつ強情でな、責任感じとるんが知らんが。

松山:はい。新宮さんは…。

会長:新宮か…。なんかおったな。じゃけんど宗像とは違って、あいつはわしらとは何の関係もないけんのお。今どこおるんや。

松山:…宗像さんの事務所にはいないでしょう。みんなやられて、警戒してるから、集まることは無いと思いますよ。

会長:逃げとるんか。どこや。

松山:…あるとすれば、北区にある女の店によく行ってますね。

###

(一週間後。佐田がパチンコを打っている)

(佐田パチンコ店から出て車を走らせる)

佐田:金がねえ。下ろそう。

(佐田が銀行の駐車場に車を停める)

(佐田がATMから金を下ろし、外に出てくる)

佐田:そろそろ底を突きやがるな…。実家のババアに連絡しとくか。

(大川組ではないチンピラが2人近づいてくる)

男1:お兄さん、お金持ってる？

佐田:うるせえな、持ってねえよ。

男1:こんないい車乗ってんだから相当金もってんだろ。

佐田:は？

男2:ちょっと貸してよ。

佐田:しつけえな、やんのかコラ。

(男が2人がかりで佐田をボコボコにする。佐田も抵抗する)

男1:なんだこいつ、結構やるな。

(近くに停めてあった車から男が1人降りてくる。トランクから金属バットを取り出す)

(男が佐田に近づいていく)

(後ろから3人目の男が金属バットで佐田の頭を思い切り殴る。鈍い音が響く)

佐田:うがっ！！

(男2人が金を奪って逃げる)

(佐田が朦朧としながら立ち上がり、男たちを追いかける)

男3:んもお、めんどくせえな。

(振り返り、佐田の顔面に向けてバットをフルスイングする)

(3人が車に乗り込む)

男1:上手くいったな。

男2:ああ、2人1組がやっぱりいいな。

男3:こっちは2人がかりでやってるのに、1人相手に手こずりすぎでしょ。死んでたらどうするんっすか。

男1:うるせえな、やる方は大変なんぞ。

(夜の街に車が消えていく)

###

(1ヶ月後。高原が大学での講義を終え、教室を出ようとしている。教授が近づいてくる)

教授:高原、ちょっといいか？

高原:なんすか。

教授:ちょっと会議室来てもらっていいか。

(会議室に警察官が2人、高原と話している)

警察官3:じゃあ君はやってないって言うんだね。

高原:当たり前じゃないですか。何で俺がそこに居合わせる必要があるんですか。

警察官4:実は、被害者の男子生徒の爪に、他人のDNAが残されていたんだ。

高原:爪？つうか何でそいつの爪見ただけで何で俺のだって決めつけるんっすか。俺のDNA取ってるわけじゃないでしょ。

警察官3:警察のこと甘く見てもらっちゃ困るよ。照合検査させてもらおうよ、いいかな。

高原:…。

警察官4:あと、君には別の件でも話聞かないといけなくてね。君、白のワンボックスカーに乗ってるんじゃない？

(高原の顔が青ざめていく)

###

(松鳳会傘下長瀬組事務所。組長の長瀬が座っている。若頭の田島がノックして入ってくる)

(藤島は松山の紹介で、長瀬組に入り極道の世界に進む決定をした)

田島:失礼します。親分、うちに入りたいてやつ、来てます。

長瀬:おお、言ってたやつか。入っていいで。

(藤島が入ってくる)

田島:兄ちゃん、名前は。

藤島:藤島大毅です。今日からお世話になります！

###

(宗像の事務所。下田に連絡している)

宗像:…繋がらねえな、何やってんだ。

(事務所のドアを松山がノックする)

宗像:入れ。

松山:失礼します。

宗像:おう、どうした。

松山:すみません、どうしても用事があったもので。

宗像:用事？

松山:藤島、あいつ何か行くところないみたいだったんで、長瀬さんところに紹介させてもらいました。勝手にしてすみません。

宗像:やっぱりお前だったのか。紹介したの。

松山:正確にいうと、俺じゃないです。じいちゃんですけどね。

宗像:そうか、俺も誘いに来たのか？俺は入んねえぞ。

松山:そういうの、ダサいっすよ。

宗像:黙れや。

松山:俺、じいちゃんに頼まれてるんですよ。宗像さん誘えって。宗像さんが動き回るの、じいちゃん大目に見てましたけど、今は大川組絡んじゃってますから、そうもいかないんですよ。

宗像:…。

松山:で、うち入るんなら面倒見てやるって言ってますよ。来といたほうが絶対いいっすよ。このままフラフラやっていると、遅かれ早かれ消されますから。

宗像:消されるだ？舐めてんのかてめえ。

(宗像が松山の胸ぐらを掴む)

松山:宗像さんも強情っすね。

宗像:てめえ、次また舐めた口聞いたらマジで容赦しねえからな。

(掴んでいた手を離す)

松山:分かりました。新宮さんはどちらに。

宗像:知らねえ。連絡も取れねえ。

松山:そうなんですか…。分かりました、俺からもちょっとかけてみます。

(松山が新宮に電話をかけるが相手の電源が入っていないため繋がらない)

(松山が事務所を出る)

(松山が駐車場で電話をかける)

松山:もしもし、はい。やっぱりダメでした。あ、はい。あの事務所です。事務所に1人でいます。

(松山の電話の数分後、大川組組員の乗った車が工場に乗り入れる)

###

(21:00 頃。北区の風俗街。ビルの地下)

キャッチ:ご予算おいくらくらいですか?うちの店なら、18000 で、ピチピチの女の子と色んな事出来るんすよ?

(新宮が階段を降りて地下に行く)

(店の前に着く)

スタッフ:いらっしゃいませ。女の子お決まりですか。

新宮:ユキ、いますか。休憩中ですよ。新宮が来たと伝えてください。

スタッフ:分かりました。お待ちください。

(スタッフが店の中に入って行く。ユキが出てくる)

新宮:咲、おつかれ。あ、ここではユキか。

ユキ:…急に何しに来たの。

新宮:上の空気が合わなくて窒息しそうなんだ。だからこの空気吸いに来た

ユキ:いっそ窒息して死んだ方が楽じゃないの?

新宮:黙れ。これ、差し入れだ。(タバコを差し出す)

ユキ:ありがとう!やっと覚えたんね、うちの好きな銘柄。

新宮:確かそうだと思ってな。

ユキ:ねえ、何で私のことそうやって気にかけてくれるの?

新宮:生存確認くらいしとかないな。

ユキ:うち生命力高いけ大丈夫よー。

新宮:ゴキブリ並みにな。

ユキ:ホコリみたいな奴に言われたくないわ。

新宮:せめて同じゴキブリにしてくれ。

ユキ:今度あなたの家行ってもいい?

新宮:ああ。家に一匹余計なのがいるが、我慢できるならな。

ユキ:やった!今日行きたい!

新宮:今日…。まあ分かった。うちのやつに電話して聞いてみるわ。…あ、充電切れてやがる。

ユキ:連絡待ってるね。同じゴキブリ同士、頑張ろ!

(新宮が店を後にし、車を走らせている)

新宮:今日は暑いな。(運転席の窓を開ける)

(警察が検問している)

新宮:なんだよ、めんどくせえ…。

(新宮の車が渋滞にはまる)

(検問を通過し、車を走らせる)

(一車線の道路で、後ろから一台の車が無理に新宮の車を追い越す)

新宮:馬鹿野郎!あぶねえじゃねえか!おいコラ!!

(クラクションを鳴らす)

(前の車がハザードランプを焚いて路肩に停まる)

新宮:上等だコラ。

(新宮が車から降り、前の車に近づき、運転手に話しかける)

新宮:おい! てめえ舐めてんのか、ああ?

(運転手は前を向いたまま無反応)

新宮:聞いてんのかコラ! 降りろてめえ!

(ドアを開けようとする)

(後部座席の窓が開き、後ろに乗っている大川組組員が新宮に発砲する))

(新宮がその場に倒れる)

(車が走り去る)

(後ろについていた大川組の2台の車が下田を蛇行運転しながら轢いていく)

(衝撃で反対車線に体が投げ出される)

(反対車線を走ってきた12輪の大型トレーラーに轢かれ、肉片が飛散する)

###

(3日後。松鳳会傘下長瀬組事務所内、松山と藤島が話している)

松山:宗像さんも終わりだな。会長も助け差し伸べたのに、それ撥ね退けたからな。今頃大川組の手に陥ちてるだろ。

藤島:まあ、賢い選択ではなかったですね。

松山:お前はほんと助かったよ。長瀬組入れれば大川組の奴らも気軽に手は出せん。

藤島:俺マジで松山さんにハメられたのかって今の今まで不安でしたよ。

松山:ハメるわけねえじゃねえか。

藤島:みんなの居場所教えたの松山さんでしょ。

松山:違う。

藤島:…いいんですよ。言わなきゃいけなかった状況は容易に想像できます。

松山:お前…。

藤島:まあ、でもこうして命助かったのも、長瀬組入れたのも松山さんのおかげなんで、松山さんには感謝しますよ。

松山:俺は正式に本家入るし、お前は一家の長瀬組。兄弟の盃交そうや。

藤島:ありがとうございます、感謝してお受けします。一緒に商売するのも楽しみっす。ただ…、

松山:何だ。

藤島:宗像さんと新宮さん、俺にとっては親みたいなものなんで。親の仇はいつかうちますよ。松山さん。

松山:…。

藤島:今の俺はあなたに頭が上がりません。ただの三次団体の下っ端です。でも、この世界で経験積ませてもらって、対等に渡り合えるようになってから、改めて貴方に喧嘩を売ります。色々教えて下さい、兄貴。

###

(翌日。港のコンテナ置き場に警察が集まっている)

(鑑識が現場検証をしている)

(宗像の惨殺死体がブルーシートに包まれ、事故処理車両に乗せられる)

鑑識1:ようやく見つかったんですね。

鑑識2:ああ、宗像幸宏。松鳳会と繋がりがあるチンピラだ。傘下の長瀬組とも関わりがありそうだ。まあ多分、

大川組あたりと揉め事でもあったんじゃないのか。

鑑識 1:松鳳会と大川組、仲悪くなってるんですか。

鑑識 2:互いに警戒しあってるってとこか。実際のところは分からないな。

鑑識 1…ムナカタ、ユキヒロか。この名前をつけた人はこいつがこんな姿で死ぬことは望まなかっただろうな…。

鑑識 2:つけられた名前のもつ意味がどうこうじゃない。こいつがやってきたこと、それがこいつの全てだ。

完